

議 事 概 要

会 議 の 名 称	令和5年度第1回弘前市伝統的建造物群保存地区保存活用審議会
開 催 年 月 日	令和5年10月10日（火）
開 始 ・ 終 了 時 刻	午前10時から午前11時50分まで
開 催 場 所	弘前市役所市民防災館3階 防災会議室
議 長 等 の 氏 名	弘前市仲町地区伝統的建造物群保存会会長 今井 二三夫
出 席 者	<p>中部仲町町会長 黒瀧 儀之 西部仲町町会長 北畠 昌夫 時敏地区子育て支援員 工藤 綾子 弘前市仲町地区伝統的建造物群保存会評議員 小林 敬子 弘前大学人文社会科学部教授 関根 達人 青森県立弘前工業高等学校教諭 岡田 俊治 東北工業大学建築学部准教授 中村 琢巳 工学院大学理事長 後藤 治 横浜国立大学特別研究教員 中尾 方人 弘前市消防団第一方面団北地区団第一分団長 成田 利章 弘前市観光部長 神 雅昭 弘前市建設部土木課長補佐（代理出席） 小林 洋樹 弘前市都市整備部長 小山内 孝紀</p>
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	<p>教育部長 成田 正彦 文化財課長 石岡 博之 文化財課課長補佐 小石川 透 文化財課文化財保護係長 村上 真知子 文化財課文化財保護係総括主査 一戸 修 文化財課文化財保護係主査 清野 優雅</p>
会 議 資 料 の 名 称	<p>資料1：弘前市仲町伝統的建造物群保存地区令和4年度事業実績及び令和5年度事業計画について 資料2：弘前市仲町伝統的建造物群保存地区防災計画（案）について</p>

<p>会議内容</p> <p>(発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)</p>	<p>1. 開会</p> <p>2. 審議会会長あいさつ</p> <p>3. 会議 議長：今井会長</p> <p>議題①：弘前市仲町伝統的建造物群保存地区令和4年度事業実績及び令和5年度事業計画について</p> <p>事務局より説明。質疑、意見等は以下のとおり。</p> <p>岡田委員</p> <p>旧笹森家住宅案内看板の制作費が高い印象を受ける。工業高校に制作を依頼してもらえると、生徒たちは勉強しながら喜んで制作するので、今後は地元の高校生との協力・連携を検討して欲しい。</p> <p>関根委員</p> <p>遺跡の発掘現場における現地説明会をはじめ文化財の公開活用における説明会が増えてきていると思うので、伝建地区における日常的な維持管理についても来訪者に伝える機会を設けることで観光客や市民の理解が深まっていくのではないかと思う。</p> <p>小林委員</p> <p>公開武家住宅の指定管理業務について、これまでは新型コロナウイルス感染症の影響で外国人が少なかったが、最近はかなり外国人が増えてきている。</p> <p>工藤委員</p> <p>隣地境界のサワラ生垣について、管理が不十分となっている場合が見受けられるので道路側だけでなく隣地境界もサワラ生垣せん定奨励金の対象にしてはどうか。</p> <p>→【事務局】サワラ生垣せん定奨励金については、隣地境界部分も含めてすべて対象となっているので、改めて地区住民等へ周知するようにしたい。</p> <p>→【今井会長】</p> <p>隣地境界のサワラ生垣の維持管理をどちらが行うべきかという相談を最近受けるようになった。</p> <p>サワラ生垣の維持管理について、かつては南通りに面する敷地</p>
---	--

の場合は、東側の生垣を維持管理するという慣習があったが最近ではこのことが分からなくなっているようなので、制度内容とあわせて周知するようにしてはどうか。

北島委員

案内看板の制作費については、高いと感じた。保存地区内は、案内板や説明板が少ないと感じているので、新しい看板を設置するなど効果的な使い方をすべきではないか。

黒瀧委員

空き家のサワラ生垣が十分に管理されていない事例が散見されるので、対策を考えるようにしてもらいたい。

成田委員

公開武家住宅の入場者数について、観光客あるいは市民の内訳は把握しているのか。

→【事務局】来館者の内訳は把握している。概ね7～8割が県外からの観光客となっているが、このほかにも小中学校の社会科見学などでも多く使用してもらっている。

議題②：弘前市仲町伝統的建造物群保存地区防災計画（案）について

事務局より説明。質疑、意見等は以下のとおり。

中村委員

現在の基本方針2点ではソフト対策寄りの印象を受けてしまう。公開武家住宅を核として防災意識の啓発事業を行うというようなことを調査報告書でも提言されてるので、ハード対策寄りの基本方針を盛り込んだ方が行政の取り組みとしてバランスが取れるのではないか。

二点目は伝統的な雪囲いに関する記述について、歴史的景観や伝統的な雪害対策の手法を加えたうえでの防災力向上という視点にたてば、防災計画において雪囲いなどの伝統的な手法を奨励する取り組みがあってもよいと思う。

三点目は、「弘前大学が行った防災意識調査による」と記載されているが、新防災計画策定のため市の事業の一環で行った調査であるので、外部機関による調査を引用したという誤解を与えないためにも記述を見直すべきではないか。

中尾委員

公開武家住宅以外の伝統的建造物については、早期に耐震性能を把握することが必要であると同時に、一般住宅に比べて長期間にわたり使用されることになるので定期的な点検が非常に重要になってくると考える。

事業スケジュールについて、一般住宅や公開武家住宅、個人所有の伝統的建造物と対象ごとに取り組みの主体や内容、緊急性が異なると思うので表記の仕方を工夫する必要があるのではないかと。

北島委員

市政懇談会でも話題となったが、市の防災マップでは弘前中央高校が水害時の避難場所となっているが、時敏小学校の方が避難しやすいと考える地区住民も多くいるので、時敏小学校で垂直避難することを可能とするよう検討して欲しい。

以前、保存地区は消流雪溝が整備され電線地中化が行われている地区なので基本的には排雪が入らないという話があったが、町会だけでは十分な除排雪を行うことが困難なので、緊急車両の通行のためにも排雪作業はしっかりとやって欲しい。

また、武家住宅を宿泊施設として活用したいと新聞報道にあったが詳細について教えて欲しい。

→【事務局】

浸水想定区域に位置する施設は水害時の避難場所にできないという国の方針に基づき、時敏小学校ではなく弘前中央高校を水害時の指定避難場所としている。しかし、指定避難場所ではないがあくまで一時的に避難するというような使い方はできるのではないかと議論が庁内でも行われているので、方針等が明らかになり次第、別途お知らせしたい。

歴史的資源を活用した観光まちづくり事業について、10月3日に関係6団体と連携協定を結んだところであるが、文化財建造物は修理や維持管理に多額の経費を必要とし、建物の保存が難しくなりつつあるという課題を受けて、今後の維持管理のため収益性の向上が求められるということが背景としてある。そこで、全国的にはホテルなどとして活用し収益を上げている事例があるので、そういった事例を参考に同様の取り組みができないかを検討していくということが協定の内容であり、武家住宅で宿泊させることが正式に決定しているわけではない。

岡田委員

全国的には台風による被害が多くなりつつあると感じているが風害に関する内容を計画に盛り込む必要はないのか。

→【後藤委員】

風に対する考え方は耐震対策と同じで、地域によって風対策が必要なところと耐震対策が必要なところを比べ必要性が高い方の対策をとることで風と耐震の両方に対応できるようになる。

仲町の場合は、サワラ生垣が防風林の役割を果たすので、おそらく風害よりも耐震対策の方が必要となる力が勝るので耐震対策をしておけば家屋の風害対策を個別に行う必要はないと考えられる。

→【中尾委員】

建物にかかる水平の力としては地震も風も同じということになるが、風で建物が倒壊したというような事例はほとんどないため今回、風に対する計算は特にしていない。

成田委員

既設の消火設備を操作する人は誰を想定しているのか。

→【事務局】

通常であれば、公開武家住宅の管理人が第一発見者になると思うので、来館者の避難誘導などを行ったうえで可能であれば初期消火を行ってもらうことを想定している。今後は、近隣の地区住民も対象に操作訓練を行うなどして初期消火を担える人員を増やしていきたいと考えている旨を計画に記載している。

→【成田委員】

消防隊が到着するまでは5～10分はかかってしまうので、初期消火が重要となる。消防設備の整備も必要だが、操作できる人間を育てていくことも重要だと思う。

関根委員

空き家対策も防災対策として重要だと思うが計画に盛り込まないのか。

→【事務局】

空き家対策についても、当然必要となってくるものと認識しているが、計画の構成上は現住の建物と空き家を区別はしていない。空き家対策については、これまでも担当課である建築指導課と情報共有しながら対応しており、今後も同様に取り組む必要があると考えている。

小林委員

道路舗装を出来るだけ早めに直すようにしてほしい。

工藤委員

近隣の庭木が高木化しアメリカシロヒトリ対策の薬剤散布について、高い部分まで散布できないような状況となっているので、行政から適切に管理するよう働きかけてもらえないか。

→【今井会長】

樹木の維持管理について、雪囲いだけでなくこういった日常的な維持管理も含めたうえでの防災対策を考えていく必要があるのではないか。

黒瀧委員

雪囲いに対する補助を今後、検討してもらえればと思う。

後藤委員

雪対策も防災対策の一つと認識している。これが南の方ではシロアリ被害などが課題となってくるので、弘前の場合は雪害が地域特有の防災であるということを訴えていってもよいのではないか。

自主防災組織や地区住民が参加する発災対応型防災訓練（街なかを訓練会場として行う実践的な防災訓練）をぜひ行うようにして欲しい。これを行うことによって、実際に消防が到着するまでの間に何ができるかを体験できるようになり、通常の防災訓練を行うよりも非常に効果的なものとなる。

また、防災拠点となりうる公開武家住宅に放水銃だけでなく易操作性消火栓を整備することで、近隣する一般住宅での初期消火にも使用できるので、こういったことも含めて発災対応型防災訓練を行うようにしておくことを推奨する。

水消火器と粉末の消火器の使い方の違いを知っているだけでも初期消火の対応が変わってくるので、訓練の際には消防にレクチャーをお願いしてもよいと思う。

中村委員

計画策定までのスケジュールの中で、今後、地区住民との意見交換会を検討しているとあったが、伝統的建造物に居住している方へは個別に説明するなど、一般住宅に居住の方とは別の対応を検討した方がよい。

中尾委員

第7章の事業スケジュールの記載方法について、対象となる建物によって対策が異なると思うがどの程度まで細かく記載するつもりなのか。

→【事務局】

詳細は計画本文に記載しているので、それぞれの取り組みの実施主体が概ねわかるようにという思いで、各分野の課題と対策に対応する形で記載している。

神委員（観光部長）

雪国ではどのような日常生活をおくっているのか興味関心を持って訪れる外国人観光客が近年多くなっているため、雪吊りをして庭木を守っていることは防災対策であると同時に観光資源にもなっているものがあると考えている。我々にとっては当たり前なことでも、感動を与えることもあるので仲町地区のボランティアガイドなどで積極的に周知してもらいたい。

また、第7章の事業スケジュールについて、特に、実施主体の表記方法で行政と住民のいずれもが実施主体として表記されている点などは誤解や認識の違いを与えかねないので、例えば補足資料を添付する、あるいは具体の対策や役割を詳細に記載するなど記載方法を見直したほうがよいのではないか。

小林土木課長補佐（建設部長代理）

樹木の雪囲い、雪吊りについては、通路や道路への落雪を防ぎ通行の安全確保という意味でも防災計画に記載してよいのではないか。道路舗装については、令和7年度までの4年間で完了させる計画となっている。

小山内委員（都市整備部長）

サワラ生垣や樹木は保存地区ならではの財産であり、その必要性を強調して記載することで雪囲い等を防災計画に盛り込むことの妥当性が明らかになってくるのではないかと。

第7章の事業スケジュールについて、震災対策における「耐震診断の促進」及び「公開武家住宅における耐震補強案の検討」の計画期間が中～長期と記載されているが早めに取り組んだ方がよいのではないかと。

また、水害対策における「要支援者等への避難誘導體制の検討」と「復旧・支援体制の検討」については、検討だけでなく体制づくりまで含めた方がよいと思う。

中尾委員

今回の調査では、耐震診断を行う際に青森県のヘリテージマネージャー7名に協力いただいたので、今後は耐震対策だけでなくほかの分野においても積極的に関わってもらえるようにするのもよいのではないかと。

4. 閉会